

令和7年 シラバス

第3学年
普通科
研志コース（大学進学）

鳥取城北高等学校

科目名	論理国語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	実社会に必要な語句の定義や意義を理解している。また、文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解している。	論理的かつ批判的に考える力を伸ばすと共に、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。	多角的に物事を捉え、客観的かつ主体的に思考判断できる。そのうえで積極的に学ぶ姿勢で授業に取り組むことができている。
価 A わかる	実社会に必要な国語の語彙や表現の知識・技能を活かしつつ、文章の種類による効果的な段落の構成や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	他者の主張や発言にもとづいて、対話をとらえ論理的・多角的な視点で説明できる。考える力を養い、自分の思いや考えを広げることができる。	様々な考えを受容し、客観的かつ主体的に思考判断するように努力することができる。
基 B できる	実社会に必要な国語の知識や技能への関心を持つことができる。また、文章構成や展開の仕方に関心を持つ。	他者の主張の主張にもとづいて、対話をとらえることができる。また、伝え合う力を養い、自分の考えや思いを広げることができる。	自分の意見や思いを伝えるために、積極的に学習活動に参加する。
準 C する	実社会において必要な国語の知識や技能への学習意欲を持つ。	自分の思いや考えを伝える事への意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し、学習意欲を持つ。
評価方法	定期考査・小テスト・課題・レポート・授業時の観察	定期考査・小テスト・課題・レポートや小論文・授業時の観察	課題の提出状況・授業への取り組み姿勢・レポートや小論文作成時の取り組み姿勢・授業時の観察

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 自己と他者 2 コミュニケーションの手段 3 メディアの変容
2 学期	4 言語の探究 5 政治と社会 6 存在への問い 7 環境へのまなざし
3 学期	

何で学ぶか(教材)

大修館『論理国語』705
桐原書店『常用漢字 ワイドアルファ』
浜島書店『常用国語便覧』
教員作成資料

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習・ペア学習
ICTの使用

科目名	古典探究	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大進
目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで本文と付属資料を関連付けて捉え、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。
価 A わかる	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。	進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。
基 B できる	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。	進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
準 C する	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。	進んで古典特有の読み方を確認し、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。
評価方法	授業、ワークシート、小テスト、定期考査	授業、ワークシート、小テスト、定期考査	授業、ワークシート、小テスト、提出物、定期考査

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	(古文) 随筆, 歌物語 「枕草子」, 「伊勢物語」 (漢文) 小話 「十八史略」
2 学 期	(古文) 歴史物語 「大鏡」 (漢文) 古詩 「古体詩」
3 学 期	(古文) 作り物語 「源氏物語」 (漢文) 中国の思想 「孟子」, 「荀子」, 道家思想

何で学ぶか(教材)

東京書籍「新編古典探究」(古探701) 「新編古典探究学習課題ノート」(準拠ノート) 「体系古典文法」(数研出版) 「読んで見て覚える重要古文単語315」(桐原書店) 「必携 新明説漢文」(尚文出版) 各種ワークシート
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

科目名	実践数学 I A	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
価 A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量
2 学 期	データの分析 場合の数と確率 図形の性質 数学と人間の活動
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『新課程 リンク数学演習I・A approach+basic』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	自己表現	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	文・芸大進学

目 自己を表現する手段（書く・話す・傾聴していると示す）について幅広く学び、受験に必要な表現する力を高める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	相手や目的、意図に応じた適切で論理的で時事をふまえた自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ、意見交換から考えを深め、自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して諸問題について考察しようとする。
	A わかる	意図に応じた適切で論理的な自己表現ができ、協働して課題について意見交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、協働して考察しようとする。
	B できる	自分の知識や体験に基づいて、要求される制限を満たしつつ、自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解して読み書きや意見交換ができる。	提出物の準備ができていいる。自分の考えを持ち、課題について他者と一緒に考えようとする。
	C する	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現ができる。	目的や場、課題の意図を理解してある程度、読み書きや意見交換ができる。	授業を受けるための準備ができていいる。（教材の準備・服装）
評価方法	授業、定期考査、発表	授業、定期考査、発表、提出物	授業、提出物、発表	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	スピーチ（「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度、時間は30秒、40秒）、新聞記事を使った意見文（結論→根拠の展開）、テーマ型意見文（400字、600字）、課題文要約
2 学期	川柳（夏休みを短く切り取る）、課題文要約、テーマ型意見文・テーマ型小論文、新聞記事・出前授業について気付きや感想をまとめる、スピーチ
3 学期	

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材、日本経済新聞をはじめとした記事、大学の過去問題、専門学校の出前授業、講演・講座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク、ペアワーク、課題、講演、出前授業

科目名	実践数学ⅡB	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 S 使える	事象を数学的に解釈したり、数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し、問題解決の過程を振り返り考察し、評価・改善しようとすることができる。
価 A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し、問題を解決できる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基 B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い、過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準 C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	式と証明・複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数
2 学期	微分法と積分法 数列 統計的な推測
3 学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『改訂版 新編数学B』 数研出版『改訂版 3TRIAL数学Ⅱ+B』 数研出版『改訂版 リンク数学演習ⅡB』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

科目名	芸術演習	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 大学進学
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美術大学の受験に特化し、美術理論と美術の専門科目に対応できる能力を身につける。 ・美術の学習内容に関心を持ち、制作や鑑賞へのあこがれや期待をもつ。 ・最終学年になり、志望大学, 学部, 学科の決定, それに伴う受験対策の強化をする。 			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 標準	S 使える 実践するために必要な知識を身につける	制作活動や技法を適切に判断できる	それぞれの技法の特徴を考える
	A わかる 目的に応じた道具や技術を選択する	様々な技法を用いて基礎的な制作をする	様々な技法について学ぼうとする
	B できる 大学の中での芸術活動の意義と役割を理解する	様々な技法を用いて表現できる	様々な技法を用いて制作することができる
	C する 進路実現に必要な受験内容や求められる知識について理解する	自分なりの工夫や表現を考えることができる	将来を見据えた能動的な学習態度を持つ
評価方法	授業課題の提出	授業課題の提出	授業課題の提出

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	4月 オリエンテーション 5, 6月 木炭デッサン制作 石膏 人物 7, 8月 デザイン構成
2 学期	9月 油絵の基礎 10, 11月 油絵の制作, 受験対策 12月 受験対策
3 学期	

何で学ぶか(教材)

画用紙、木炭紙、木炭 デザインセット 油絵セット キャンバス 等
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 演習

科目名	日本史探究	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志	コース (大学進学)
目標	歴史的思考力を培うなかで基礎歴史事項の確認とともに、多様化する現代社会の中での課題を考える。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 基 準	S 使える	我が国の文化や伝統がどのような特色をもち形成されてきたかについての認識を深めることができる。	政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素について幅広い考察力を培うことができる。	日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けることができる。
	A わかる	日本史と各地域の歴史の関連性を理解することができる。	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。	日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集を行うことができる。
	B できる	日本史と世界史を関連づけながら理解することができる。	平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	日本史を理解するために必要な語句を理解することができる。	日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	近代国家の成立 二つの世界大戦とアジア
2 学 期	占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本
3 学 期	

何で学ぶか(教材)

<p>詳説日本史 (山川出版) 日本史のライブラリー (とうほう)</p>

どのように学ぶか(授業方法など)

<p>講義 ペア学習・グループ学習</p>

科目名	英語コミュニケーションⅢ	授業時数	週 4 単位	3 学年
		コース	研志コース	文・芸大学進学
目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すると共に、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	自分の意見を適切な英語表現を用いて正しく話したり書いたりできる。	具体的な言語の使用場面に応じて思考・表現し、相手に理解してもらうことができる。	自然に相づちやアイコンタクトがとれ、積極的に関わろうとする。
価	相手が表現する内容を正しく捉えることができ、内容を理解することができる。	指定された時間内に正しい発音で、内容を分かりながら読める。	理解したことを他者と確認したり、意見を伝えたりすることができる。
基	内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読みたり書いたりすることができる。	指定された時間内に正しい発音で読める。また事実と意見などを区別して、理解できる。	理解できない部分をそのままにせず他者に聞くなどして解決することができる。
準	モデル文を真似てゆっくりはつきり読み、丁寧に書くことができる。	平易な単語を置き換えて、パターンプラクティスすることができる。	授業を受ける準備ができる。(用具、服装・整理整頓など) また教師の話を中心して聞くことができる。
評価方法	授業・定期考査・インタビューテスト	授業・定期考査・提出物・パフォーマンステスト	授業・提出物・音読テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	L1 Incredible Edible L2 Blood id Blood L3 Biomimetics L4 Political Correctness
2 学期	L5 Saving Our Treasures from the Sea L6 Body Imperfect L7 Christmas Truce L8 Global Water Crisis
3 学期	L9 Extinction of Languages L10 Jose Mujica: The World's Poorest President

何で学ぶか(教材)

啓林館『LANDMARK Fit』 English Communication III 数研出版『必携英単語LEAP』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 小テスト ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	国語実践	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし、日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ、社会活動においても信頼される人材を目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 習得した漢字・ことば・ことわざ・慣用句・四字熟語を活用する。	文章表現のなかで、習得した国語常識を適切に表す。	日常的な場面で積極的に習得した語句を使用する。
価	A わかる 漢字・ことばの正しい使い方ができ、常識用語を認識する。	文章表現のなかで、適切な語句を正しく選択する。	習得した語句を理解し、自分の日常生活に関わらせる態度を持つ。
基	B できる 国語常識を繰り返し学習し、正確に理解する。	場面、状況にあった語句の使い方を考え、正しく理解する。	身につけるべき事柄について意欲的に学習できる。
準	C する 覚えておくべき国語常識の演習問題に取り組む。	漢字書き取り練習、語句の意味調べに取り組む。	日本語の力を身につけるため、国語を総合的に学習する意欲を持つ。
評価方法	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む力 漢字を書く力 ことばの力 文章表現 韻文 文学史 文法の力
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む力 漢字を書く力 ことばの力 文章表現 韻文 文学史 文法の力
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読む力 漢字を書く力 ことばの力 文章表現 韻文 文学史 文法の力

何で学ぶか(教材)

<ul style="list-style-type: none"> テスト式 国語常識の総演習 京都書房 補助教材プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

<ul style="list-style-type: none"> 問題演習後の答え合わせ 補助教材での反復学習

科目名	実践英語	授業時数	週 3 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	長文や文法，リスニングの問題演習により思考力，判断力を向上させることで大学入学共通テストや私立大学の入試レベルの学力を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	入試レベルの問題演習において，単語や慣用句など適切な語彙で正しく解答できる。	入試レベルの問題演習において，正しく解答することができる。	入試レベルの問題を積極的に解き，復習し，読解力や正答率を向上させるよう努めている。
	A わかる	演習問題において，語句の問題が正しく解答できる。	演習問題において，根拠に基づいて適切に解答できる。	演習問題を根拠に基づいて解くだけでなく，積極的に復習をし，弱点を補強しようと努めている。
	B できる	単語や語句の力が向上している。	演習問題において，自分なりの根拠に基づいて解答を導くことができる。	演習問題において，自分で考え，根拠に基づいて解答しようと努めている。
	C する	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。	問題演習に取り組んでいる。
評価方法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物	

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	文型，時制，進行形・完了形 助動詞，受動態，不定詞 動名詞，分詞/分詞構文
2 学期	準動詞のまとめ，比較 関係詞，仮定法，否定，注意すべき 構文，大学入試問題演習
3 学期	

何で学ぶか(教材)

英語総合問題集 UNITE STAGE 2.5 (数研出版)

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習 ペア学習・グループ学習 講義による解説

科目名	政治・経済	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志	コース 探究(看護・文芸)
目標	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 準	S 使える	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び現代の政治・経済的課題について理解できるとともに、諸資料から様々な情報を適切に調べまとめることができる	現代の政治・経済的課題について、事実を基に多面的・多角的に考察したり、公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる	よりよい社会の実現を視野に、現代の政治・経済的課題を多面的・多角的な考察や深い理解を通して主体的に解決しようとするすることができる
	A わかる	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに。様々な情報から情報を取捨選択し、まとめることができる	現代の政治・経済的課題について、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、議論することができる。	現代の政治・経済的課題について、考察し、主体的に解決しようとするすることができる
	B できる	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念や理論について理解できるとともに、様々な情報をもとに、調べることができる	事実を基に考察し、公正に判断することができる。	現代の政治・経済的課題について、自らの知識を通して、主体的に理解しようとするすることができる。
	C する	選択・判断の手掛かりとなる基本的な概念について理解できる。	事実をもとに考察することができる	日常に関する政治・経済的課題に対して、主体的に理解しようとするすることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 定期テスト 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業 提出物 提出物 	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1部第1編現代日本の政治 第1部第2編現代日本の経済 第1部第3編現代日本における諸課題の研究
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第2部第1編現代の国際政治 第2部第2編現代の国際経済 第2部第3編国際社会における諸課題の研究
3 学期	

何で学ぶか(教材)

実教出版『最新政治・経済』 実教出版『最新政治・経済 演習ノート』 プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループワーク ディスカッション

科目名	生物基礎	授業時数	週 2 単位	3 学年
		コース	研志 コース	大学進学
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価 標準	S 使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し、数値の取り扱いも確実にできる。実験、実習の技能が確実に身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち、調べたり考察したりする。
	A わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し、数値の取り扱いもできる。実験、実習の技能が概ね身につけている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることのもとに、考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B できる	基本的な概念・知識が概ね身につけている。実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	基本的な概念・知識がある程度身につけている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験、観察、レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験、観察、レポート等	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とのはたらき
2 学期	第3章 体内環境と恒常性 第4章 植生の多様性と生態系
3 学期	

何で学ぶか(教材)

第一学習社 高等学校新生物基礎(711)
数研出版 生物学習ノート

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習
グループ活動

科目名	体育	授業時数	週	2	単位	3	学年
		コース・学年	研志	コース	文系・芸術系大学進学		
目標 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。							

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S 使える 実践の中で技術や戦術、正しい知識を用いて、楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し、プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするができる。
価	A わかる 戦術や技術を適切な場面で生かし、集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに、自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い、共に考察することができる。
基	B できる 基礎練習を正しくおこなひ、競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し、またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
準	C する 基本的な身体機能を理解し、基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め、機能解剖やトレーニング方法、また食育、栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学 期	バレーボール ソフトボール サッカー バasketボール
3 学 期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント ICT機器
--

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析
